

教育のつどい！ 課題別分科会

集まって話すことで、明日への元気が生まれる！

午後からは、能登川南小学校で、11の課題別分科会が開催されました。今年、高校生のレポート2本。保護者や市民の方のレポート3本を含めた計28本が出され、より開かれた「教育のつどい」となりました。どの分科会でも教育・学校への思いや悩みが語られ、みんなで、子どもたちに寄り添う教育のあり方について考え、深め合いました。



「卒業を間近に控える子どもたちが、先生たちのプロポーズの場面を演じたい。先生らも自分をさらけ出したら学校楽しくなるやん」と思いを伝えてきたこと、「職業教育でいったい何をやる？ 挨拶ではない。よくやるのは障害者権利条約について。」「私たち抜きに私たちのことを決めないで、校則やルールに対しての自己矛盾を引き起こす」「いやだと言えない。自分で決めることができない。外食で食べるものも選べない。だからこそ自己決定のプロセスを踏んでいくことが大事」「支援を用意しても、子どもがそこにたどりつけない。学習でも部活でもない取り組み

課題別 滋賀の特別支援教育A

いま、どこの学校でも特別な支援を必要とする子どもたちが増えています。分科会には高校や、高等養護学校から、実践や取組レポート4本が報告されました。



（ほっとホームルーム）の中で、やっぱり仲間がほしいという願いが出てくる。など、子どもたちにとって必要な支援のあり方について、みんなで話し合い深めました。

近年不登校・登校拒否の児童生徒の数が増加しているにもかかわらず、学校では一定の設備や対応策がとられるようになり、話題に上らなくなってきたいます。

このままでよいのかという、保護者や関係者の声がかかるなかで、今年度から分科会を再開することになりました。

当日は、不登校の子どもの持つ保護者、スクールカウンセラー、別室対応の支援員、親の会の方々、児童民生委員など、様々な立場の方が参加されました。「父親として我が子が不登校になり何を考え、どう自らが変わっていったのか」「子どもにとって学校という所とHSC（入）倍敏感な子」の子ども達」の2本のレポート報告がありました。報告を受けてそれぞれの立場から見える子ども達と彼らを取り巻く環境の到達点と課題が話し合われました。「学校でもする

課題別 不登校・登校拒否を考える

と忘れられている存在になっていないか」「関係機関、学校、保護者の連携がうまく繋がっているのか」など多様な課題や、認識が共有されました。

参加者の多くから、「今後も引き続き開催してほしい」「現場の先生にももっと参加してほしい」という願いが語られました。このような願いに応えるよう引き続き、教職員も一緒に不登校や登校拒否の子どもたちにとっての教育について考えていければと思います。



画像は一部、加工処理をしています

全国障害児学級・学校学習交流会「神戸」

滋賀から84人が参加し学びと交流を深める



企画」として、鳥取大の三木裕和さんのミニ講演ではこれまでの教育権獲得運動をふりかえりつつ、「40年前、学校に行けなかった子どもたちが行きたいと願った学校になっていくか？」「職業検定に見られるような教育が、私たちが求めてきたものなのか？」など、今の学校が希望の持っている場になり得るかが問いかけてられました。

1月11日から13日の3日間、神戸市で「第19回全国障害児学級・学校学習交流会「兵庫」」が開催されました。全国から830人、滋賀からも84人の教職員・保護者が参加しました。

開会全体会は、障害のある子どもたちのダンスで始まり、阪神淡路大震災の経験から生まれた歌「しあわせをはこべるように」の合唱も披露。障害のある青年たちの新喜劇に会場は笑いの渦に包まれました。「養護学校義務制40周年

赤木和重さん（神戸大）の記念講演では、「障害児教育の魅力を考えてみる」「発達理解の視点から」をテーマに実践や事例を紹介しながら、「実践を改めて発達の視点で見ることの大切さ」を話されました。「いま、子どもたちも、教師も、追いつめられている。知らず知らずのうちに、生産性の低さを、障害のある子どもにあてはめるような社会になっていないか。私たちは子ども理解を深め、子どもたちに合った社会を求めていく力を」と語られ

ました。

2日目は、「てんこ盛り講座」「文化バザール」「震災遺構を訪ねるフィールドワーク」午後からは「実践分科会」。3日目は「子どもが安心して過ごせる学校づくり」「子どもから出発する学校づくり・授業づくりの視点で学習指導要領を考える」「ゆたかな教育を保護者と教職員の共同で」「災害時の避難と支援の在り方」の4つのテーマで「教育フォーラム」が行われました。

日中は多めに学び、夜は神戸の味覚と、美味しいお酒で交流を深めた、とても元気の出る3日間でした。



全滋賀教組女性部 新春のつどい

「アロマ&香り玉作り」コンパニオン



1月19日の日曜日、教文会館で女性部新春のつどいが開催されました。会場には新春らしい生花が飾られ、華やいだ雰囲気になりました。参加者は、子どもたちも含め42人でした。

一昨年に続いてのリクエスト企画「アロマ&香り玉作り」。アロマサロン湖香の森のセラピスト河越さんが「冬を元気に過ごすために、身体と心へ香りの効果とハンドケア」と題して、アロマの効用についてのお話、香り玉のネットレスやストラップ作り、ブレンド精油（アロマ作り）に

加えて、ハンドマッサージの方法も教えてくださり、みんなでマッサージをしあって元気になりました。

学校でのアロマ導入の効用の具体例として、「先生が好きな香りのペンダントをしていると落ち着いて生徒と向き合える」「イライラしやすい生徒のいる教室には、落ち着くラベンダーやオレンジの香り」「保健室で元気が出ない生徒には柑橘の香りで前向きに」「感染症が流行る季節には抗ウイルス作用等のあるティートリー・ラヴィンサラ・レモンなどの香り」などを紹介していた。



ただきました。柑橘系は多くの方が好みやすい香りなので教室で使うのにおすすめとのことでした。

お昼にはみんなでおいしいお弁当をいただき、その後新春のつどい恒例の出し物で交流しました。組合らしい趣向を凝らした替え歌や指遊び、退職を迎える方からの女性部活動に対する思い、体を動かしながらの合唱などをみんなで楽しみ、明日からの元気をもらって終えました。